

ときを越え
受け継がれるもの

八幡神社（八幡山）

Ⅱ 衣川区西風山 Ⅱ

衣川に架かる安倍館橋から南西に位置する八幡山。801年、坂上田村麻呂の勅命により八幡大神を祀ったことで、八幡山との呼び名が付けられた。その頂付近に、八幡神社は社を構える。前九年合戦のさなか、1054年に源頼義が安倍氏追討を祈願して社殿を造営。1057年には、付近で激戦を繰り広げたと伝えられている。その後、火災で社殿を焼失することもあったが、現在の拝殿は1950年に、本殿は1967年に再建されたものである。延喜式内社の磐神社や和我叡登拳神社に次ぐ創建とされ、衣川区内でも由緒のある八幡神社。毎年の元朝マラソンでは、境内が折り返し地点となり、ランナーは長い石段に果敢に挑む。いまだ雪深いこの季節、八幡神社は白銀の中に佇む。住民の安全を見守り続ける地域の神は、静かに春の訪れを待ちわびている。

※衣川の月山神社境内にある石がご神体の延喜式内社で、胆沢郡七座の内の一つ

広告



1

1 雪に覆われる中、静かに社を構える八幡神社の拝殿。境内には市指定の天然記念物「コウヤマキ」が凩と立つ
2 八幡神社の境内までは、麓から201段の長い石段を登ってたどり着く



2